



Global Café グローバルリーダー育成教育活動



信州大学 工学部 工学基礎部門
講師
藤田 あき美

Global Café は 2013 年 12 月に発足した学生主体の活動 English Café が、「なぜ工学部生が英語を学ぶのか?」「グローバルとは何か?」を問い続けた未進化を遂げたグローバルリーダー育成教育活動である。我々は、グローバルリーダーを、「グローバルな環境で、共通のビジョン、ゴールを達成するために、文化の多様性を尊重しつつ、世界各国からの人々に影響を与え、共に動くことができる人」^{[1][2]} と定義する。将来、国境を越え、文化を横断するグローバルエンジニアとして活躍するため、グローバルリーダーシップスキルの中でも特に、多文化理解に基づく柔軟な(英語)コミュニケーション能力の育成を目指す。そのためにまず、周りと異なる意見を持つこと、さらに意見を発することを臆する日本人学生を意識し、以下の 3 目標を掲げてきた:

I. We have our opinions:

世界の社会・政治・経済・文化・科学・テクノロジー問題に興味を持ち、グローバルな視点から、論理的に客観的に思考を発展させることができる。

II. We want to express our opinions:

意見を発したいと思う。意見を発さなければ変化も向上もない、つまり共通のゴールに向かって動くことができないからだ。そのために自信と積極性のみならず、責任感と柔軟性を持つ。

III. We know ways to express our opinions effectively to others:

多様な文化背景を持つ学生とのチームの中で、違いを尊重し、共通のゴールを達成するためにコミュニケーションをとり、リードすることができる。

これらの目標を達成するために、Global Café では、日本人学生・留学生が、インターナショナルチーム

として、現実問題解決に向けて議論を展開し、結果を実際に行動に移している。議論のテーマとして、国連の持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals-SDGs) に掲げられたグローバル問題を選ぶ。例えば、平成 30 年度は SDG#5 「Gender Equality ジェンダー平等」を選び、議論の過程で、エチオピア人留学生アシェさんの出身ウエジラード地区では、多くの女子は朝早くから水汲みに行かなければならないなど、数多くの家事に追われ授業にさえ参加できていないことを学んだ。その結果、我々が解決を目指す現実グローバル問題は「エチオピアウエジラード地区では多くの女子が学校に行けない: *Let Girls Learn in Wejerat, Ethiopia*」* とした。平成 31 年度は SDG#4 「Quality of Education—の高い教育」を着目点とし、ICT を利用した女子教育のサポートを考えている。

Global Café は毎週月曜日、5 限に行われている。年度の着目点である SDG に関して、Global Café コアメンバーが、それぞれの出身国の諸問題、ユニークな取り組み等を発表し(10+5 分)、小グループで議論した後(30 分)、全体で具体的な解決策を明確にし(15 分)、実行に移していく。以下、平成 30 年度の発表スケジュール及び活動実績を示す。



図 1: 信州大学における Global Café の様子

* Wereda Hintalo-Wejerat 教育委員会の報告によると 2017 年度、中学、高校、大学に入学した女子生徒数はそれぞれ 1620, 376, 50 名であり、教育を受け続けることが困難であることがわかる

Date	発表タイトル
04/13	Gender gap and efforts toward equality in Palestine
04/27	Gender inequality in Nepal
05/11	A new way of living in Nagano –gender equality–
05/18	A mobile application to close the gender gap in Nepal
05/25	Let Girls Learn in Ethiopia
06/01	Education in Brazil: gender perspective
06/15	Gender inequality in El Salvador
06/22	Gender in the Netherlands
06/29	Gender in Malaysia
07/13	Gender inequality in Mexico
07/20	Gender in Japan



図 2: 清泉女学院大学における Global Caféの様子



図 3: 神奈川大学における合同 Global Café (神奈川大学の Global Café は信州大学工学部の取り組みに影響されて平成 30 年度発足)



図 4: エチオピア大使館

Date	活動
05/17	Global Café @ 清泉女学院大学 ^{図2}
06/07	エチオピア旧難民がらさん講演、食事会
06/07	Global Café @ 神奈川大学 ^{図3}
06/08	エチオピア大使館訪問、活動報告 ^{図4}
07/06	スーパーグローバル長野高校善光寺サミット参加
07/07	IEEE Professional Communication 学会発表
07/09	エチオピア絵本読み聞かせ@ 芹田小学校
08/29	パキスタン Jinnah 女子大学 IEEE WIE 学生とビデオカンファレンス
10/06	Let Girls Learn ワークショップ ^{図5}
11/11	IEEE WIE International Leadership 学会発表
11/23-25	エチオピアメケレ大学、ウェジラード高校訪問 ^{図6} ウェジラード地区出身女子大学生 9 名と面接
02/09	長野東口フェスティバル
03/02-04	10 th Annual Women's Leadership and Empowerment 学会発表@ タイ バンコク
03/14	長野ロータリークラブ



図 5: Let Girls Learn ワークショップ開催 (信州大学各学部、RICHO, NTT, 清泉女学院大学、日本女子大学、パキスタンジンナ大学、芝浦工業大学より講演者を 9 名招待)



図 6: エチオピアウェジラード高校

Global Café の「*Let Girls Learn in Wejerat, Ethiopia*」に対する解決法は、エチオピア貧困農村部女子のロールモデルを輩出し、教育を受けることさえもできない女子に夢と希望を与え、エンパワーメントすること、具体的には、ウェジラード貧困農村部出身の女子大学生 1 名に、信州大学修士・博士課程進学をサポートをすることである。そのために、平成 30 年度 11 月にエチオピアメケレ大学・ウェジラード高校を訪問し、9 名の女子大学生を面接、その結果、農業支援アプリや食育アプリの開発を通してエチオピア農村に貢献を目指す女子大学生 1 名を選出した。Global Café のメンバーが中心となり、本大学で関係の深い分野の教員とのマッチングを行い、彼女の日本語教育のサポート(skype 週 2)、さらに、渡航費・試験受験料を集めるため募金活動やインターネット上でのクラウドファンディング、就学支援等のファンドレイジングを開始した。現在はメケレ大学の講師と連携をとり、英語レッスン(週 2)も行なっている。本学生は、令和 2 年度 4 月に研究生として信州大学に来る予定である。

毎年行うアンケートの結果得た、Global Café 参加学生の様々なフィードバックから主なものを以下に抜粋する：

- 英語が話せる＝グローバル人材ではない。
- お互いの文化を知り尊重しあうことで初めてお互いが分かり合えるということを知った。
- 留学生と意見を交わすことで日本を客観的に見られるようになり、日本をより知ることができた。
- 留学生の発信力に圧倒され、意見を持つことの大切さを知り、意見を発することができる様になった。
- 工学部の女子学生数が少ないことなど、身の周りの様々な事がジェンダー問題だと気付いた。
- ジェンダー平等は男性解放につながる。
- あらゆるグローバル問題が自分の身近な生活に関連する問題であるという認識を得た。

オープンエンドの現実問題解決に向けて、議論を重ね、方法を模索しながら、多国籍チームで活動を行うこと過程で、様々な学びと成長があったと実感する。

グローバルリーダーとしての多文化理解に基づく柔軟なコミュニケーション能力を定量的に測定するのは難しいが、英語力に特化すれば、Global Café 参加＋海外経験と TOEIC スコアの推移に相関性がみられた^[3]。図 7 が示すように、入学時の TOEIC スコアは統計的に

差異がないが、GC-AY(参加者＋海外経験有)グループの上昇値は 169.0 であり、他グループに対して有意差があった。また海外に渡航した工学生の 40%は Global Café に参加している。Global Café は継続的に参加する学生に対して、間接的ではあるが、TOEIC に対する学習意識と海外留学等への参加意識の向上に影響を与えているという教育成果があることがわかった。

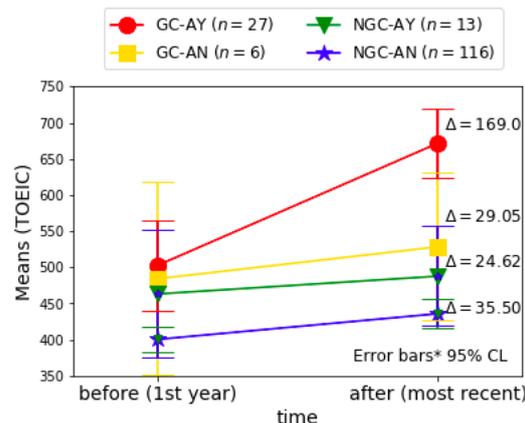


図 7: グループにおける、Global Café 参加事前(before)事後(after)の TOEIC(IP)スコア平均上昇率。GC-AY(赤)は参加者で海外経験有、GC-AN(黄)は参加者で海外経験無、GEC-AY(緑)は非参加者で海外経験有、GEC-AN(青)は非参加者で海外経験無。Before スコアは学部 1 年次のもの、after スコアは直近のスコア (Global Café 参加者の場合は参加後)。Δはグループ内の平均上昇率。



図 8: 平成 31 年度 Global Café コアメンバー

Global Café は、日本人学生と留学生からなる多国籍チームであり、グローバルリーダーを目指し、意見を持つこと、意見を発信すること、そして異文化理解に基づくコミュニケーションスキルの向上を目標としている。「意見がないこと」、「意見を発する意志のない」ことは、言語とは独立したものはあるが、日本人学生の英語能力の向上を妨げている最大の障害物だと考える。しかし、Global Café に継続的に参加し続ける日本人学生は、留学生の発信力に触発され、意見をもっていない自分に気づき、持つことの大切さを知り、意見を発するようになる。参加を通して、海外にも興味

を持ち、留学・インターンシップ等どんどんチャレンジをするようになる。英語に対する勉強意欲も向上している様であるが、それ以上に、英語よりも、異文化理解に基づくコミュニケーションの大切さを学んでいる。Global Café の活動を通して学ぶグローバルリーダーシップスキルは、大学卒業後、現実のグローバルな社会での即戦力になるであろう。

参考文献

- [1] Adler, N. J. (1997) “Global Leadership: Women leaders” *Management International Review*. 37(1), 171-196
- [2] Harris, P. R., Morgan, R. T., & Moran, S. V. (2004) “Managing cultural differences: Global leadership strategies for the 21st century” New York: Elsevier
- [3] Fujita & Ong (2018) “The impact of English Café on students’ global awareness and TOIEC scores” *グローバル人材育成教育研究* 第6巻、第1号, 33-44